

みんなにとって分かりやすいハザードマップとは？

～防災意識の向上を目指して～

熊本県立宇土高等学校

要旨

一般的なハザードマップでは高齢者や小さい子供が理解しづらいと考えた。そこで、幅広い世代に分かりやすい防災マップを作ることと目的とし、アンケートの実施や地域住民へのインタビューを行った。その結果、色が分かりにくい、文字が小さい、ごちゃごちゃして見にくいという意見が得られた。今後は、この結果を宇土市役所へ現状報告し、宇土中・宇土高生専用のハザードマップ、さらには宇土全体のハザードマップの作成もしていきたい。

1. 目的

- 幅広い世代の人に分かりやすいイラストを活用した防災マップを作り、宇土市民の防災意識を高める。
- 宇土中学生・宇土高校生に学校周辺の防災知識を身につけてもらう。

2. 方法

- 班員全員で宇土中学・宇土高校で現在の災害が起きたときの対応、避難ルート、危険な場所を認知する。
- 学校の生徒、職員にも宇土高校で現在の災害が起きたときの対応、避難ルート、危険な場所を認知しているか確認する。
(Formsでアンケート実施)
- 宇土駅から宇土中学・宇土高校までの道(県道297号)沿いの住民にアンケートを取る。(19人)

3. 結果

(1) 避難ルート



図 宇土高校の避難ルート

	時間	危険
①	4分33秒	落ち葉や石が多くて滑る
②	4分53秒	・落ち葉や落木が多い・階段が急
③	5分9秒	草や根っこが多い



図 避難ルートの危険箇所

(2) インタビューでの質問内容

- 宇土市のハザードマップを見てどう思うか
- 宇土駅から宇土高校までで危ないと思うところはあるか
- 過去の災害で危険だった場所はあるか
- 被害を受けたことがあるか、また、それはいつか



右図 インタビュー区域

(3) ハザードマップを見た感想 (地域住民21人より) (平均約70歳)

- 色が見にくい
- 文字が小さい
- ごちゃごちゃして分かりにくい

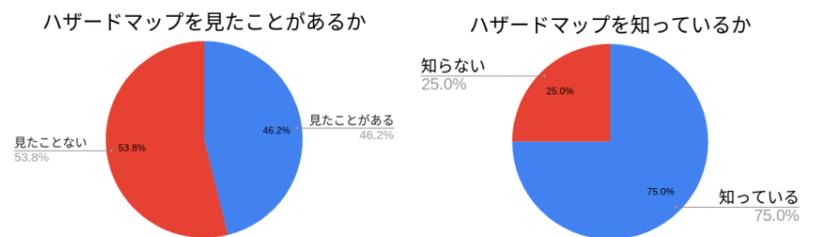


図 ハザードマップに関するインタビュー結果



図 新小路町一号線



図 宇土駅周辺の大坪川の様子

(4) インタビュー結果の内容 (地域住民21人より) (平均約70歳)

- 避難場所はわかっているが、どこに避難すればいいかわからない
- 昭和58年に水害があった
- 旭町は浸水があったが、本町通りは浸水しない

4. 考察

- ルート①が一番避難時間が早かった
→ 避難のとき危険な場所があるため急ぐと危ないことが起きると予想される
- インタビューから、本町通りは水害は少ないことがわかった
→ 昔商店街があったので土地を高くしていると考えた

5. 今後の計画

- インタビュー範囲を広げる (旭町)
- 宇土市役所へ現状報告
- 宇土高校専用のハザードマップ作成準備と作成

6. 参考文献

- ハザードマップ(国土地理院)
- 地理院地図